

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移  
(最近の動向)

令和5年12月13日  
四国森林管理局

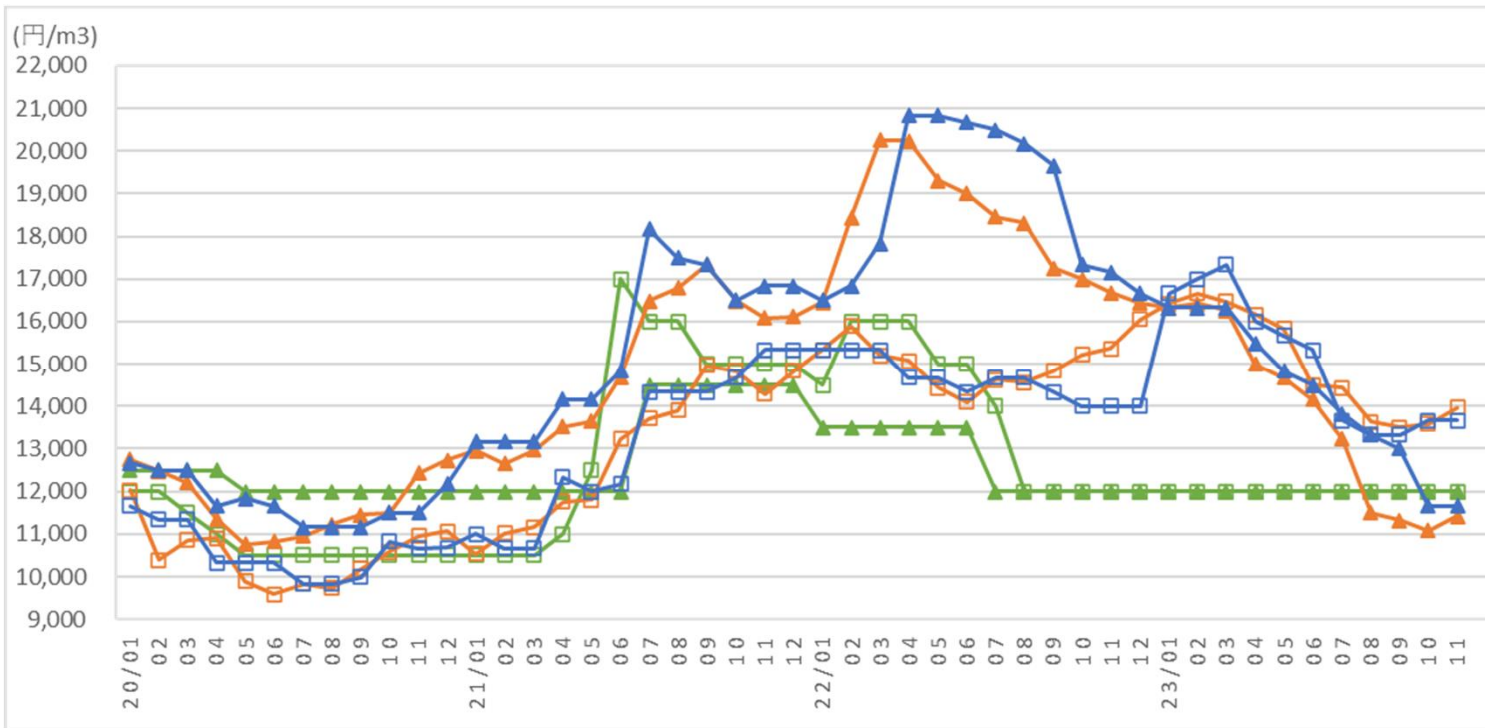
## 目次

I	管内における原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

# I 管内における原木市場・共販所の状況

## 1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和4年は、愛媛県、高知県では年明けから4月にかけて3m材の引き合いが良くなり価格が高騰、その後は軟調相場に移行したものの高い水準が続いた。また、4m材についても秋口からは引き合いがみられるようになった。
- 令和5年も3月までは高い水準が続いたが、4月以降3m材4m材ともに軟化、直近では4m材に落ち着きが見られるものの、3m材は更に下落。
- 徳島県は、令和4年7月以降軟調相場で推移、価格は令和2年の水準まで下落、その後も横這いで推移。
- 令和5年11月のスギ丸太価格は、前年同月比69%から100%で推移。



○ 11月のスギ丸太価格

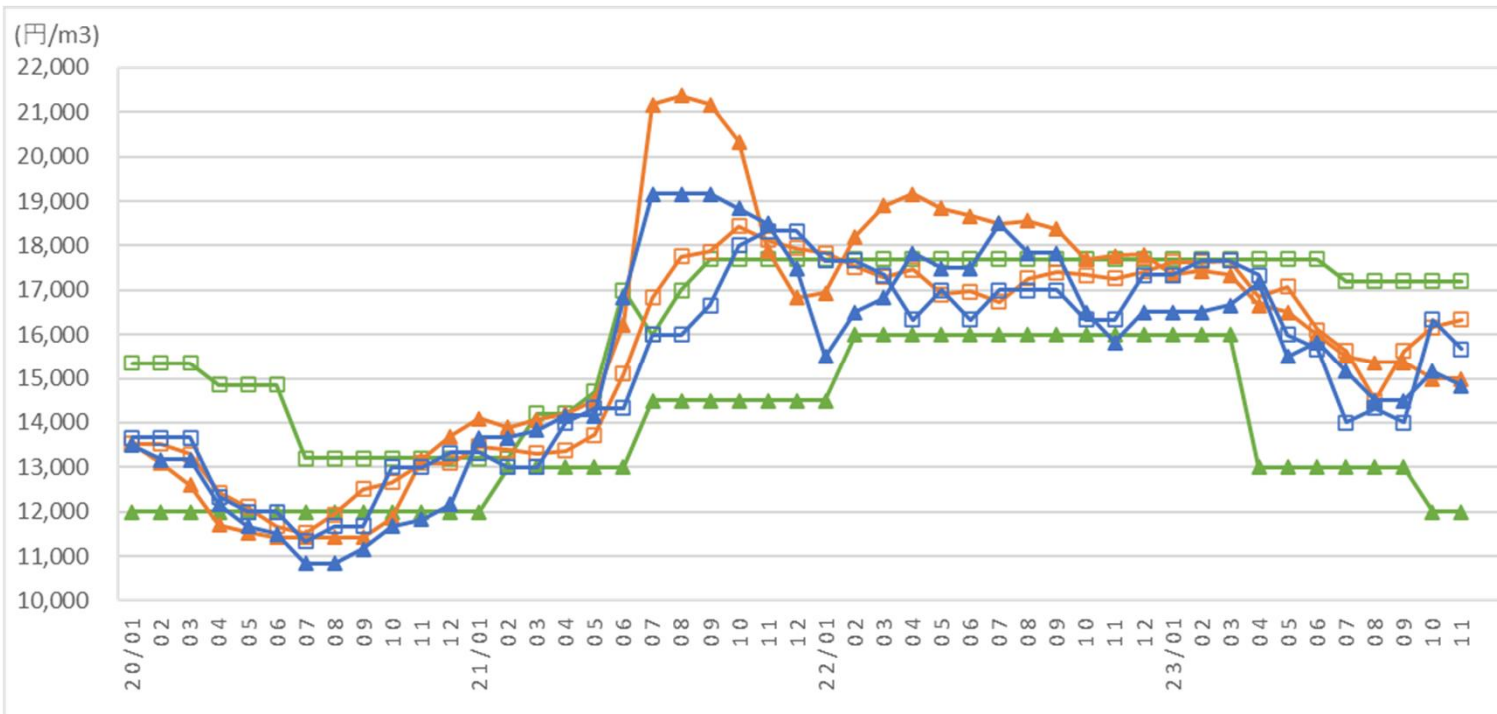
(円/m³)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
徳島県	▲ 3m材	12,000	12,000	100%
	□ 4m材	12,000	12,000	100%
愛媛県	▲ 3m材	11,417	16,683	68%
	□ 4m材	13,967	15,363	91%
高知県	▲ 3m材	11,667	17,167	68%
	□ 4m材	13,667	14,000	98%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目材については、令和4年は3県とも年間を通して高い水準で相場は安定した。
- 令和5年は、4月頃から引き合いが弱まり軟調相場に移行した。直近では底値は脱した感がみられるものの不安定な相場が続く。
- 令和5年11月のスギ丸太価格は、前年同月比75%から97%で推移。



○ 11月のスギ丸太価格

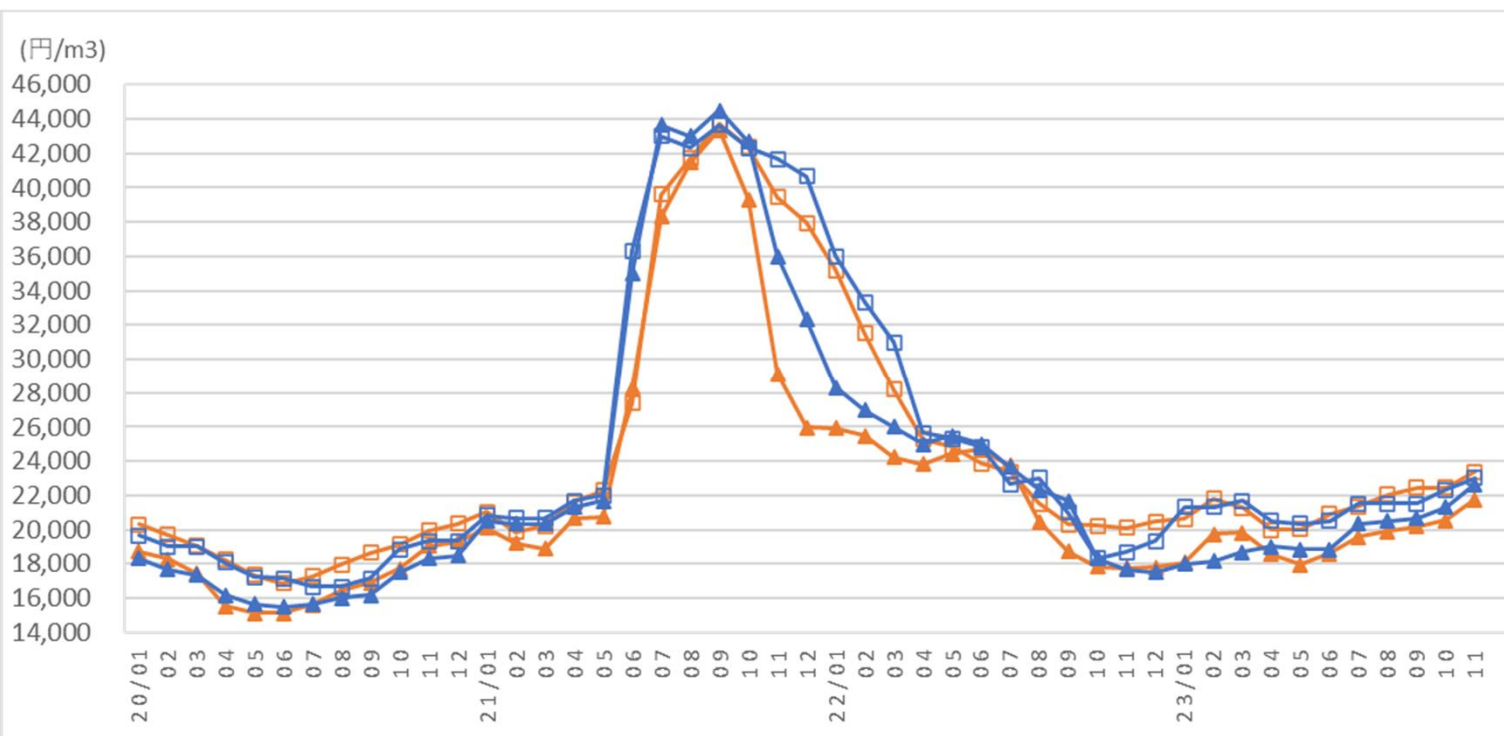
(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	▲ 3 m材	12,000	16,000	75%
	□ 4 m材	17,200	17,700	97%
愛媛県	▲ 3 m材	15,000	17,767	84%
	□ 4 m材	16,333	17,264	95%
高知県	▲ 3 m材	14,833	15,833	94%
	□ 4 m材	15,667	16,333	96%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(3)丸太価格の推移 (ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和4年は、価格の続落が止まらず10月には3m材4m材ともに令和2年同時期の水準まで下落、その後は買方の引き合いがみられるようになり価格も落ち着く。
- 令和5年に入っても価格変動は小さく不安定な相場が続いたが、秋口以降は品薄感からやや上げ基調の相場がみられる。
- 令和5年11月のヒノキ丸太価格は、前年同月比116%から128%で推移。



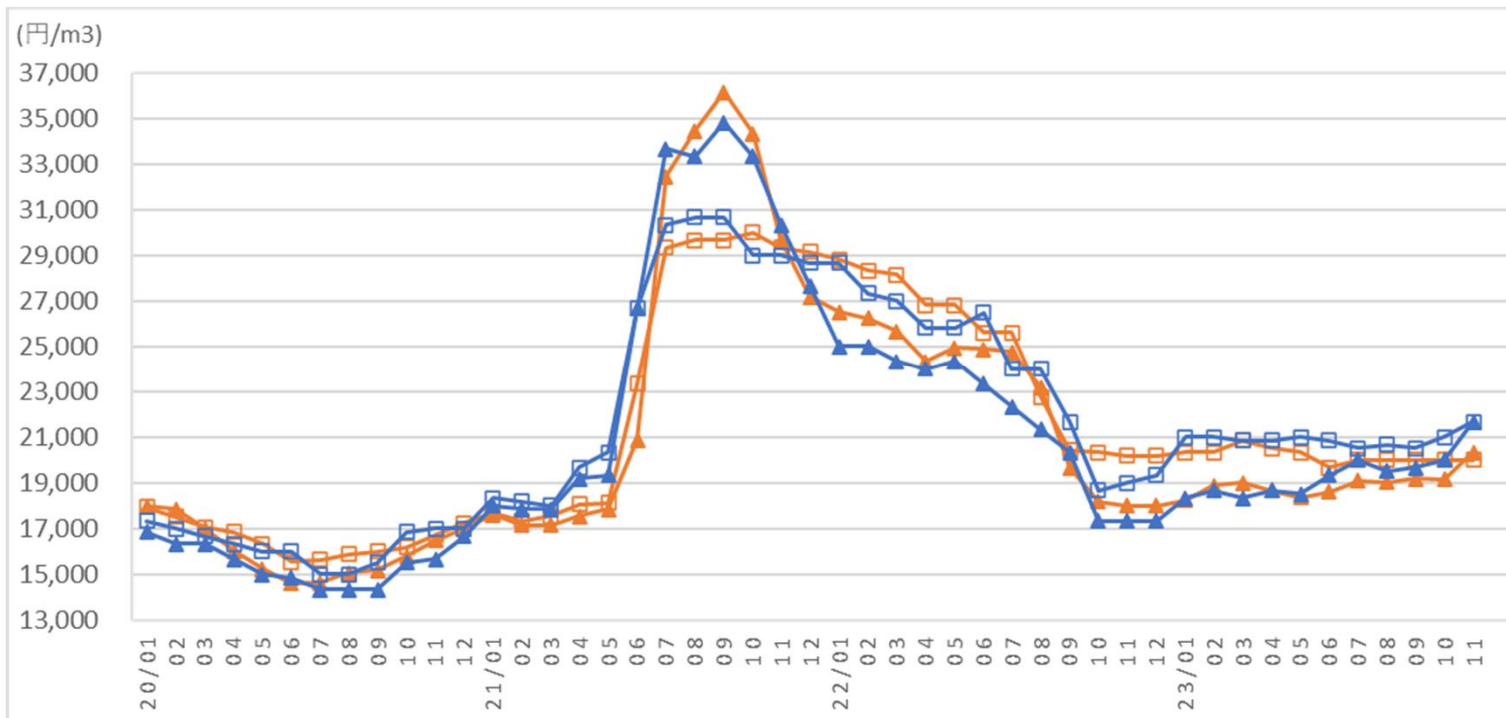
○ 11月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	▲ 3m材	21,757	17,767	122%
	□ 4m材	23,400	20,100	116%
高知県	▲ 3m材	22,667	17,677	128%
	□ 4m材	23,000	18,667	123%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

## 1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 中目材についても、令和4年は価格の続落が止まらず7月頃からは一段と下げ幅が拡大、10月に入り下げ止まりがみられ4m材を中心に価格の落ち着きがみられたが価格は低い水準となった。
- 令和5年1月には、一時、価格の持ち直しがみられたものの反発力は弱く、その後も低い水準のまま概ね横這いが続いたが、10月以降は品薄感からやや上げ基調の相場がみられる。
- 令和5年11月のヒノキ丸太価格は、前年同月比99%から125%で推移。



○ 11月のヒノキ丸太価格 (円/m³)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	▲ 3m材	20,333	18,000	113%
	□ 4m材	20,000	20,167	99%
高知県	▲ 3m材	21,667	17,333	125%
	□ 4m材	21,667	19,000	114%

注：主要な原木市場、共販所の平均価格  
資料：四国森林管理局調べ

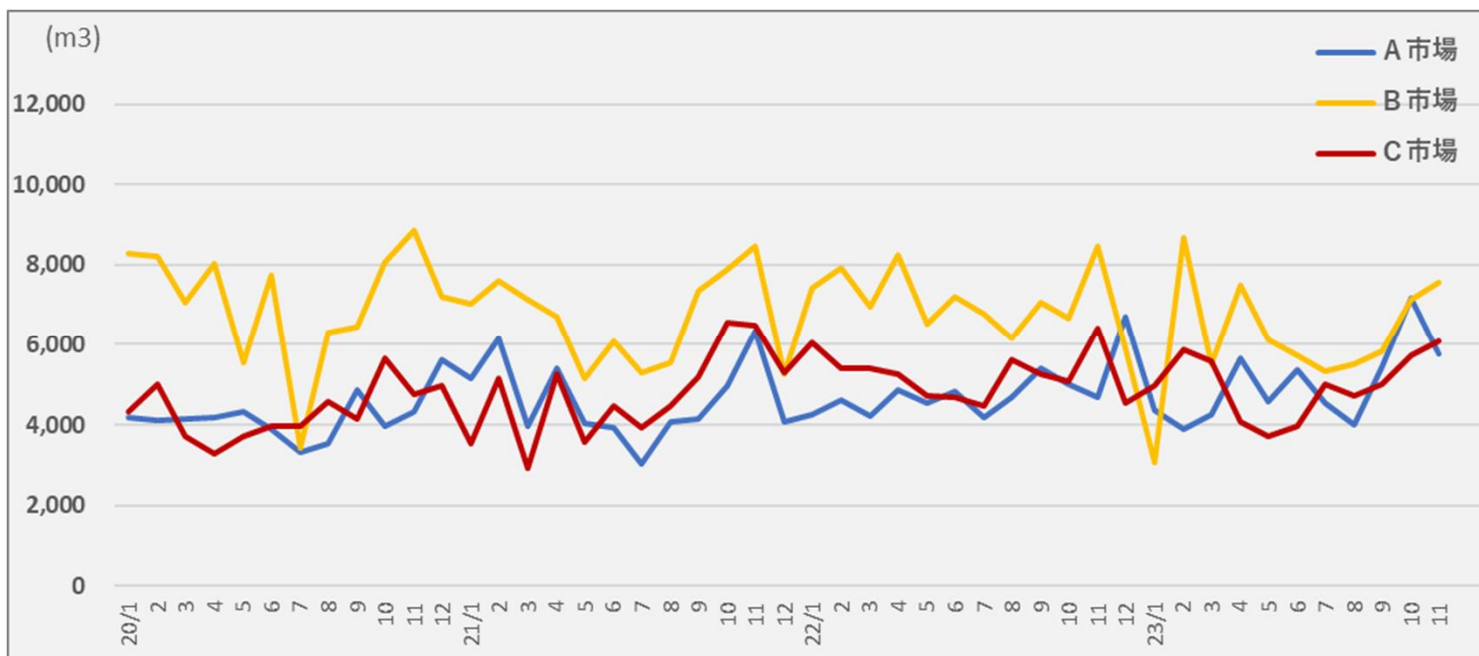
# 管内における原木市場・共販所の状況

## 2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

- 主要な原木市場・共販所の9～11月の入荷量は、前年同時期に比べ103%で僅かに増加。
- 夏場の出材は少なかったが、9月以降は天候にも恵まれ増加傾向にある。

市場への入荷量（9～11月）

	2023年	2022年	前年同期比
A市場	18,382	15,084	122%
B市場	20,533	22,178	93%
C市場	16,826	16,755	100%
計	55,741	54,017	103%



### 市場関係者のコメント

#### 【ヒノキ】

- ・10月以降は全体に堅調。
- ・柱・中目に品薄感。
- ・複数の買い方より同一規格の注文が増加。
- ・今後出材が増せば弱含むのでは。

#### 【スギ】

- ・依然として弱め、特に柱の売れ行き悪い。
- ・依然先行き不透明感を増しており、横ばいから弱含む。
- ・4m24cm上は引き合いあり。

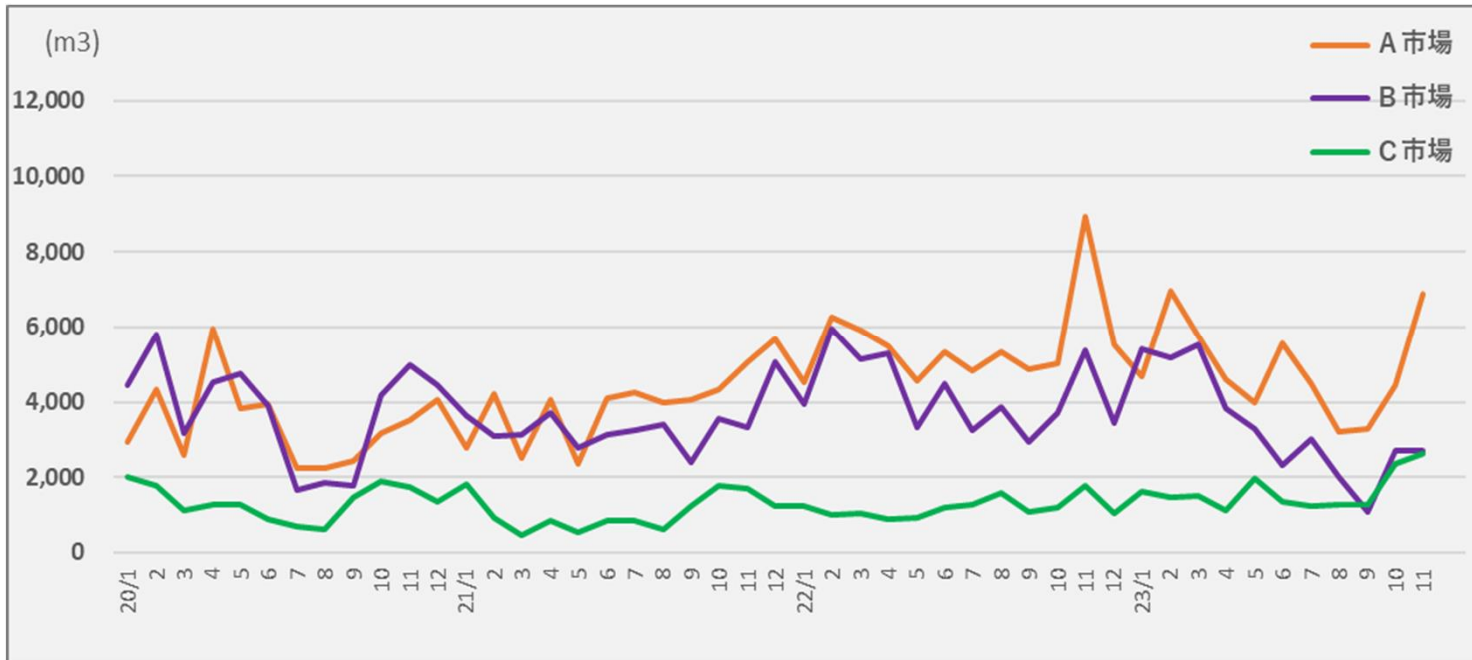
- ・好天に恵まれ出材は安定。

## 2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

- 主要な原木市場・共販所の9～11月の入荷量は、前年同時期に比べ78%と少ない。
- 愛媛県同様に夏場の出材は少なかったが、10月以降は天候にも恵まれ増加傾向で推移。

市場への入荷量（9～11月）

	2023年	2022年	前年同期比
A市場	14,600	18,823	78%
B市場	6,459	12,053	54%
C市場	6,253	4,056	154%
計	27,312	34,932	78%



資料：四国森林管理局調べ

### 市場関係者のコメント

#### 【ヒノキ】

・柱・土台が品薄感あり引き合い堅調。

#### 【スギ】

・依然として買気は弱い。  
・ウッドショック後の落ち込みも懸念したが、比較的落ち着きあり。

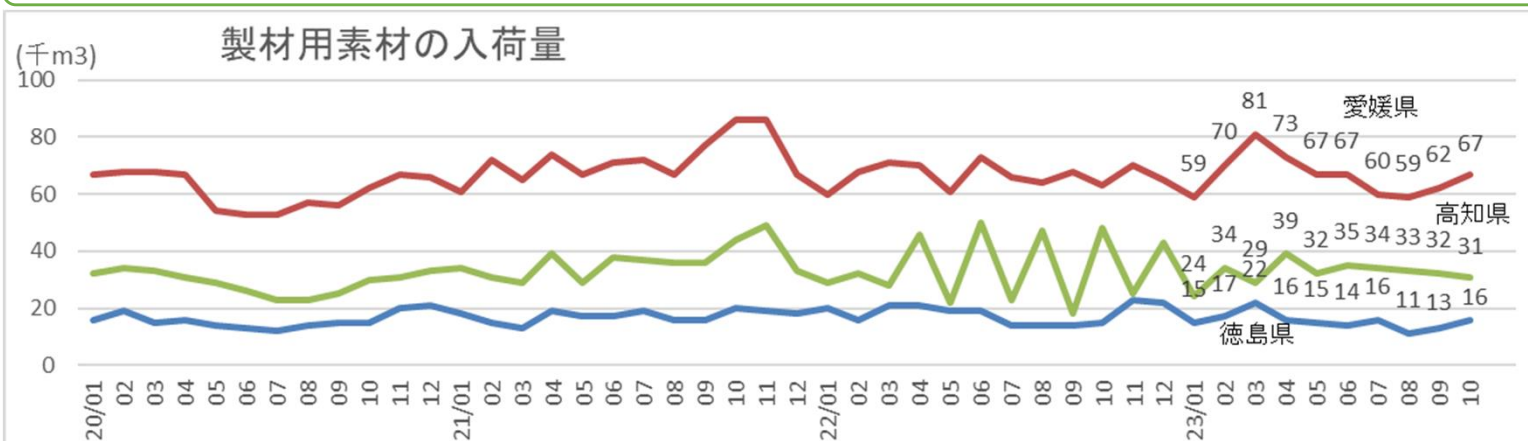
・出材は繁忙期に入り増加傾向。



## II 管内における製材等の状況

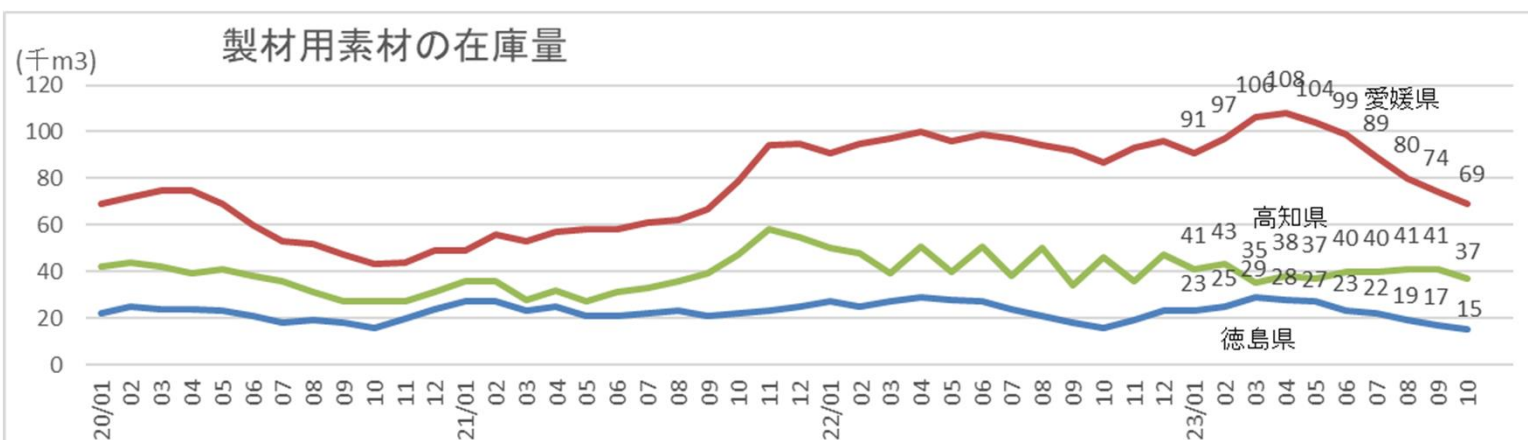
### 1. 製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和5年）

- 四国の1～10月の製材用素材の入荷量は、1,143千m<sup>3</sup>（前年比97%）。直近では徳島県・愛媛県で増加傾向、高知県は概ね横ばいで推移。
- 同期間の製材用素材の月平均在庫量は、51千m<sup>3</sup>（前年比93%）。5月以降、徳島県・愛媛県では減少傾向。高知県は概ね横ばい。令和3年11月以降高い水準にあった愛媛県も直近では大幅に減少した。



(千m<sup>3</sup>)

	2023年	2022年	前年比
徳島	155	173	90%
愛媛	665	664	100%
高知	323	343	94%
四国計	1,143	1,180	97%



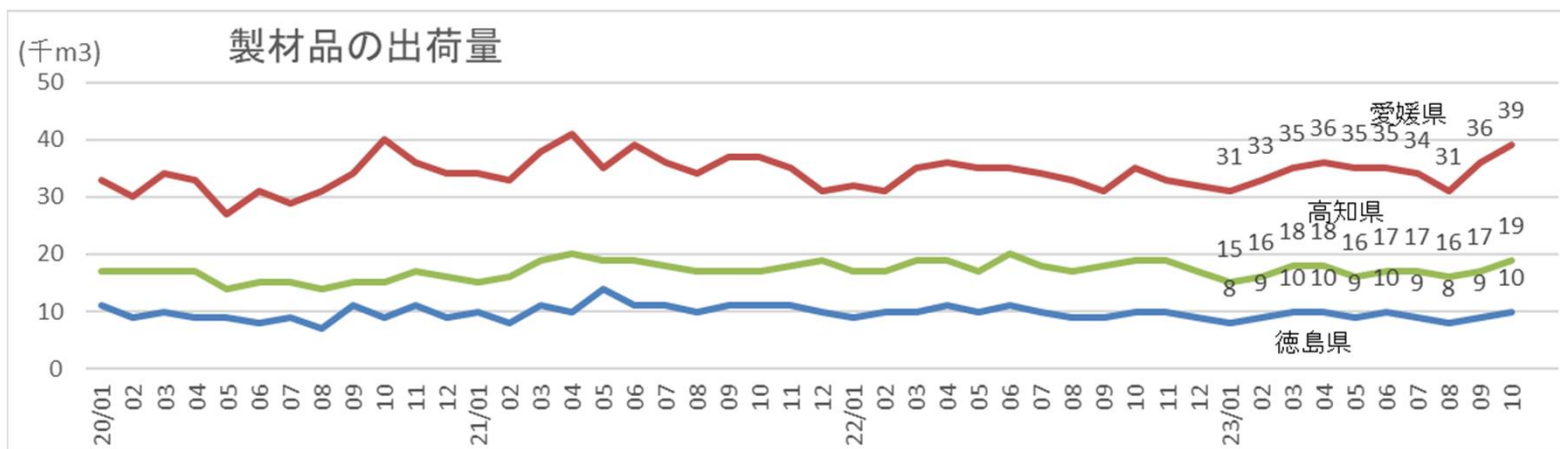
(千m<sup>3</sup>)

	2023年	2022年	前年比
徳島	23	24	96%
愛媛	92	95	97%
高知	39	45	87%
四国計	51	55	93%

資料：農林水産省「製材統計」

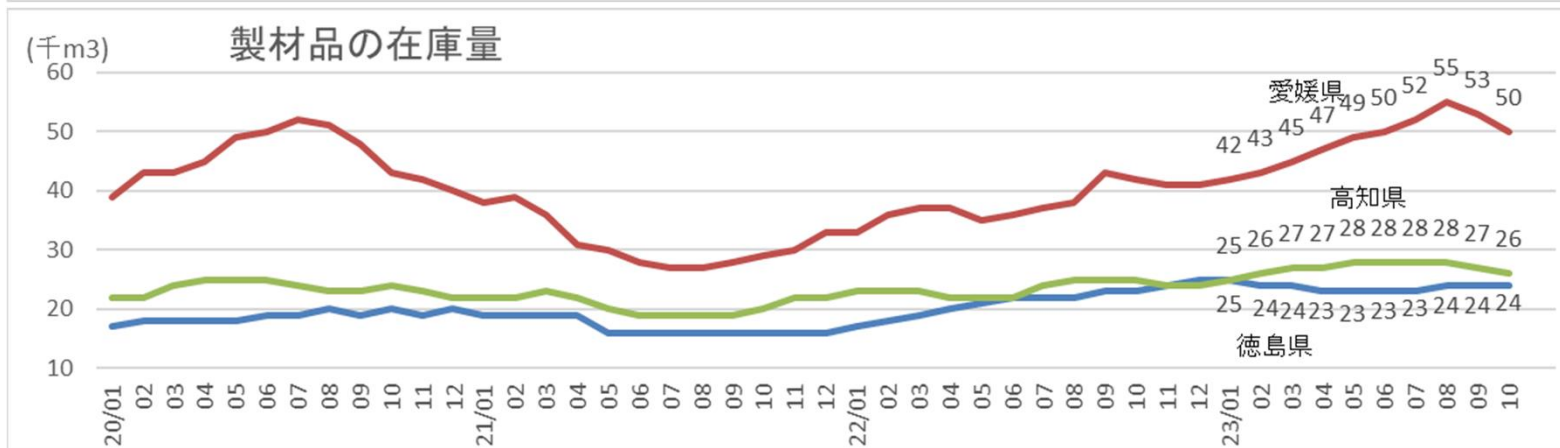
## 2. 製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和5年）

- 四国の1～10月の製材品出荷量は、606千m<sup>3</sup>（前年比98%）。各県ともに直近では増加傾向がみられる。
- 同期間の製材品の月平均在庫量は、33千m<sup>3</sup>（前年比122%）。ウッドショック以後、増加傾向が継続していた愛媛県も直近では減少に転じた。しかし、依然として令和2年同時期の水準を上回る状況にある。



1～10月製材品出荷量 (千m<sup>3</sup>)

	2023年	2022年	前年比
徳島	92	99	93%
愛媛	345	337	102%
高知	169	181	93%
四国計	606	617	98%

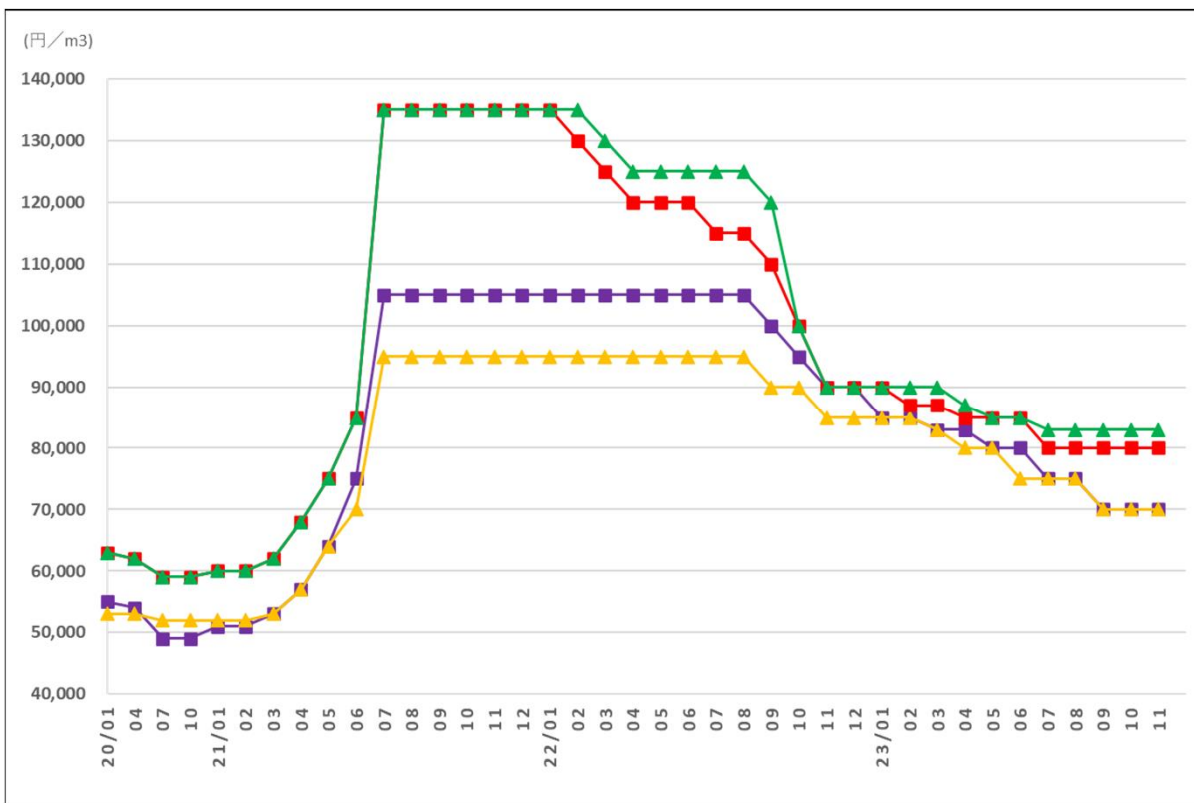


1～10月製材品在庫量(月平均) (千m<sup>3</sup>)

	2023年	2022年	前年比
徳島	24	21	114%
愛媛	49	37	132%
高知	27	23	117%
四国計	33	27	122%

### 3. 製材品価格の推移

- ウッドショックによる国産材需要の高まりも令和4年に入り、ヒノキ製品は春先から、スギ製品は9月頃から価格が落ちはじめ、10月頃にはスギとヒノキの価格差も殆どなくなった。
- 令和5年に入り、買い方の動向はさらに低迷、総じて様子見が多く価格はじり安傾向が続く。
- 直近の状況では、ヒノキ土台を中心に品薄感がみられるものの、価格が上昇するほどの引き合いはない。



国産材製品の相場（愛媛県）令和5年11月

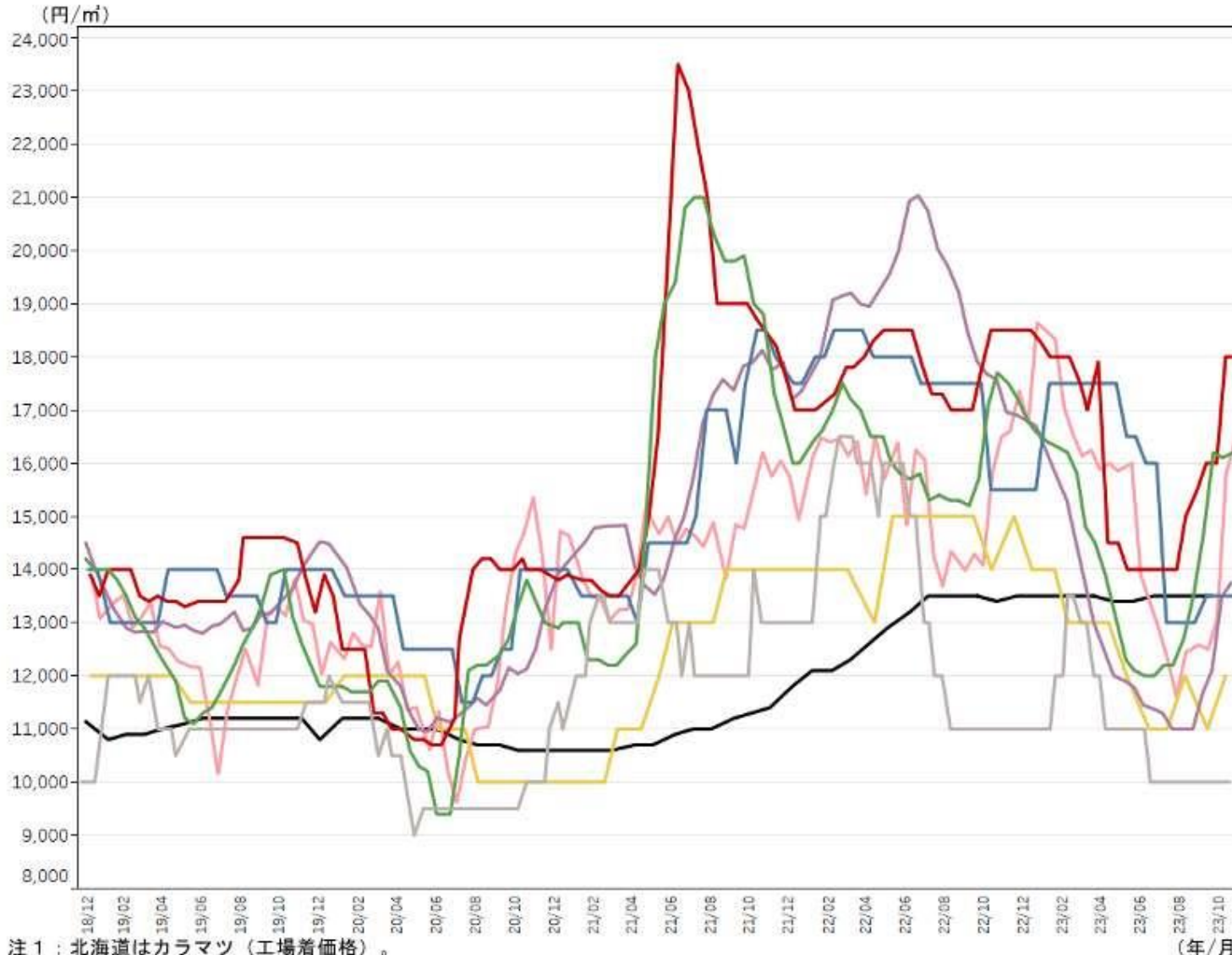
(円/m<sup>3</sup>)

品目	当月	前年 同月	前年 同月比
■ スギ柱 3m×105mm角KD特等	70,000	90,000	78%
▲ スギ間柱 3m×105×30mm角KD特等	70,000	85,000	82%
■ ヒノキ柱 3m×105mm角KD特等	80,000	90,000	89%
▲ ヒノキ土台 4m×105mm角KD特等	83,000	90,000	92%

# Ⅲ 全国の丸太価格の動向

## ア スギ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、10,000円～18,000円/m<sup>3</sup>となっている。



(単位：円/m<sup>3</sup>)

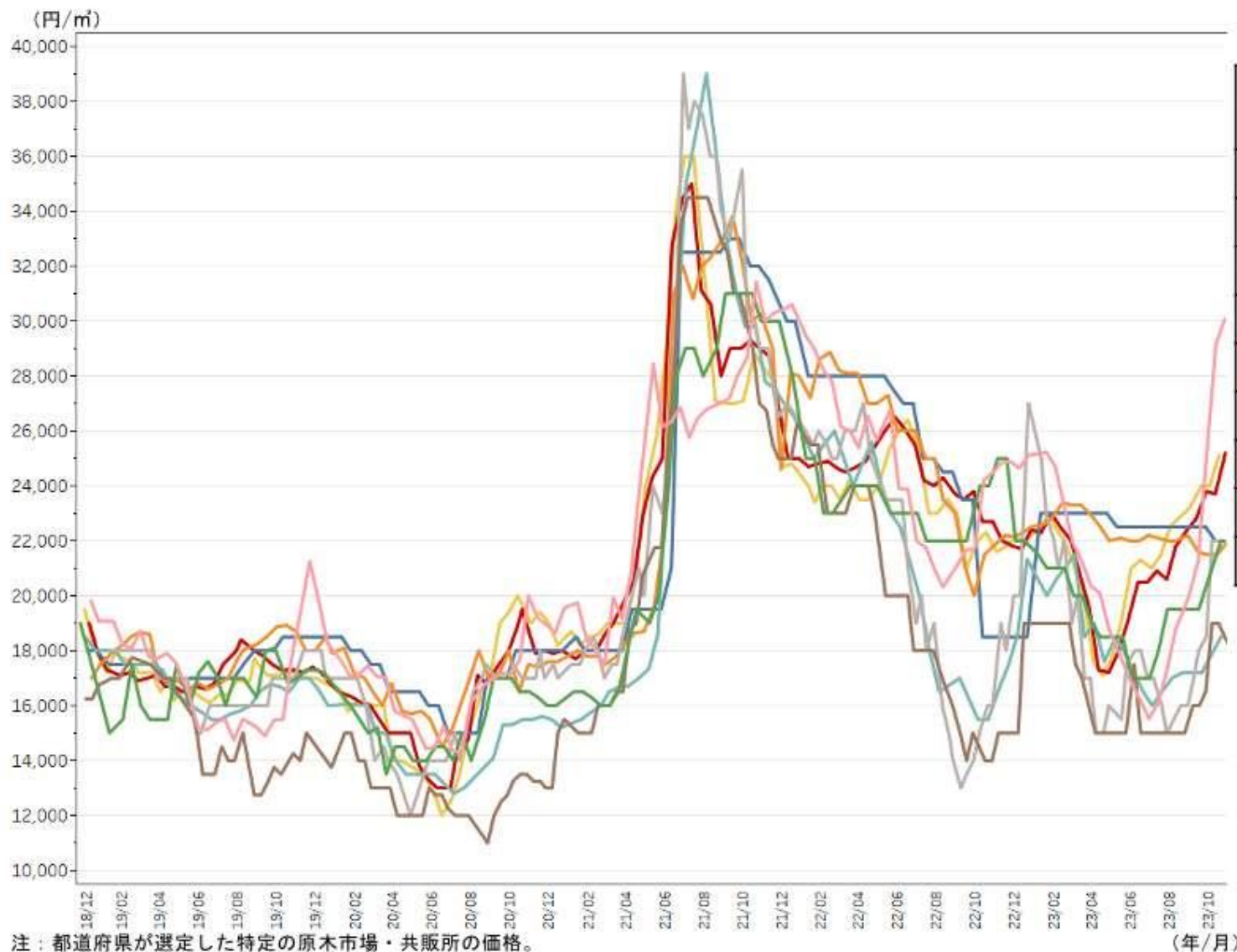
都道府県	2023年直近※	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	13,500	100%
秋田県	13,750	17,570	78%
栃木県	16,410	16,490	100%
長野県	12,000	14,000	86%
岡山県	10,000	11,000	91%
高知県	13,500	15,500	87%
熊本県	18,000	18,500	97%
宮崎県	16,200	17,700	92%

※北海道については9月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については10月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。  
 注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

## イ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、18,500円~30,070円/m<sup>3</sup>となっている。



(単位：円/m<sup>3</sup>)

都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	30,070	24,490	123%
静岡県	22,000	24,000	92%
兵庫県	18,500	14,000	132%
岡山県	22,000	16,000	138%
広島県	18,500	15,500	119%
愛媛県	21,900	21,800	100%
高知県	22,000	18,500	119%
熊本県	25,200	22,700	111%
大分県	25,100	22,300	113%

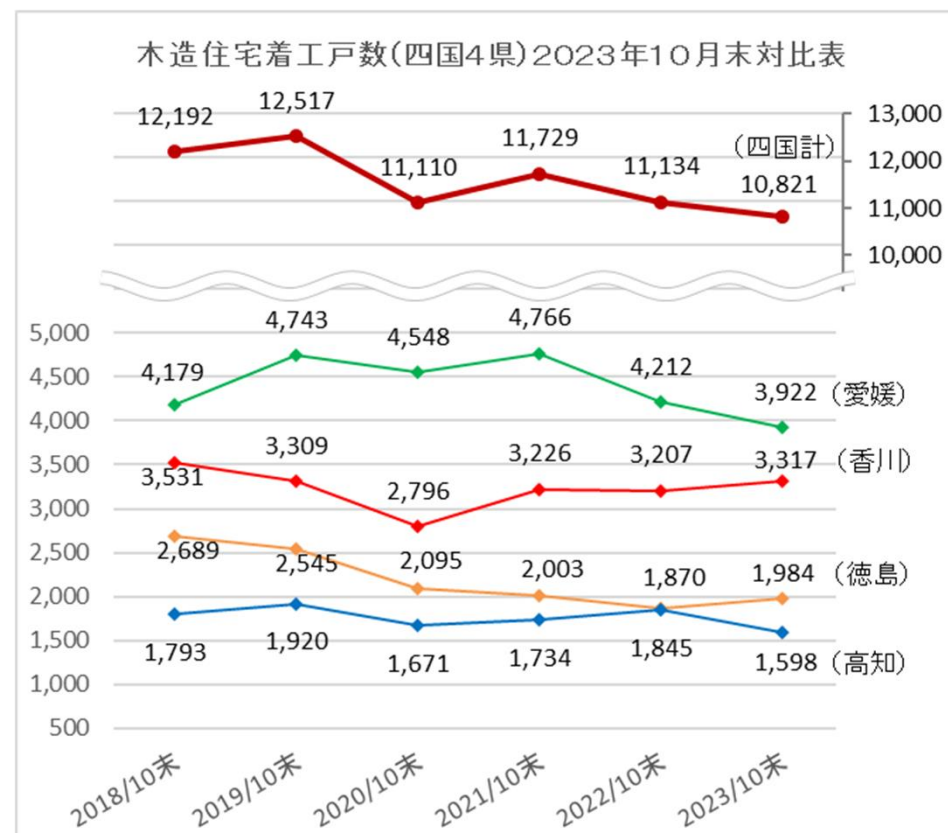
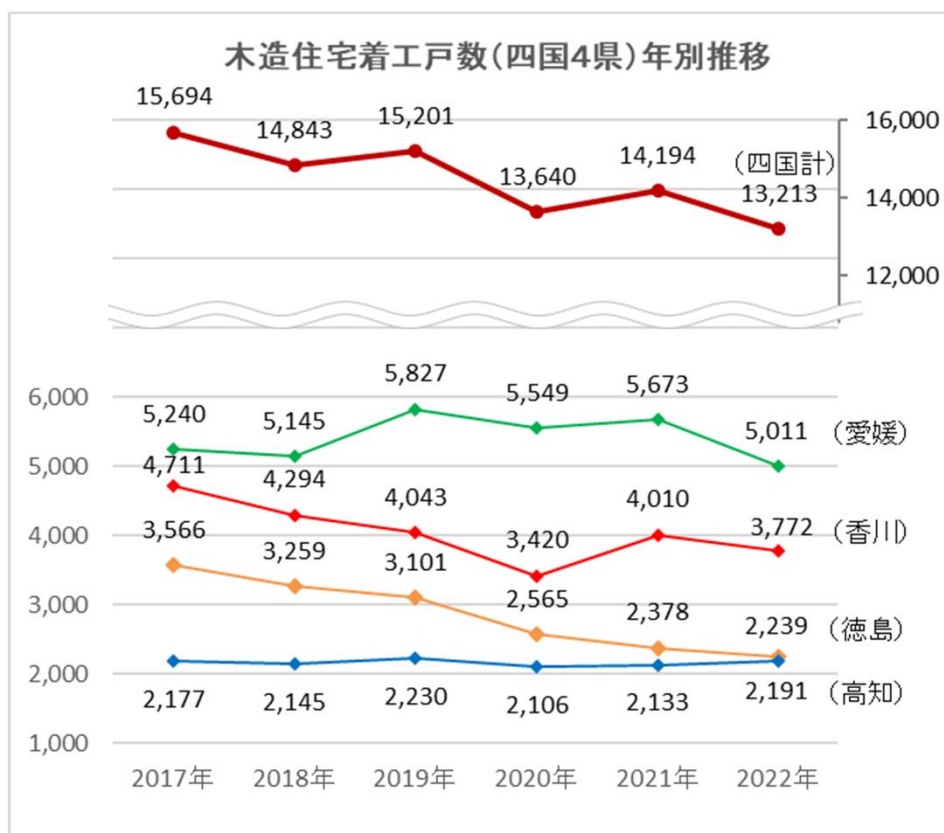
※各県10月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

# IV 住宅着工戸数

## 1 四国における木造住宅着工戸数の推移

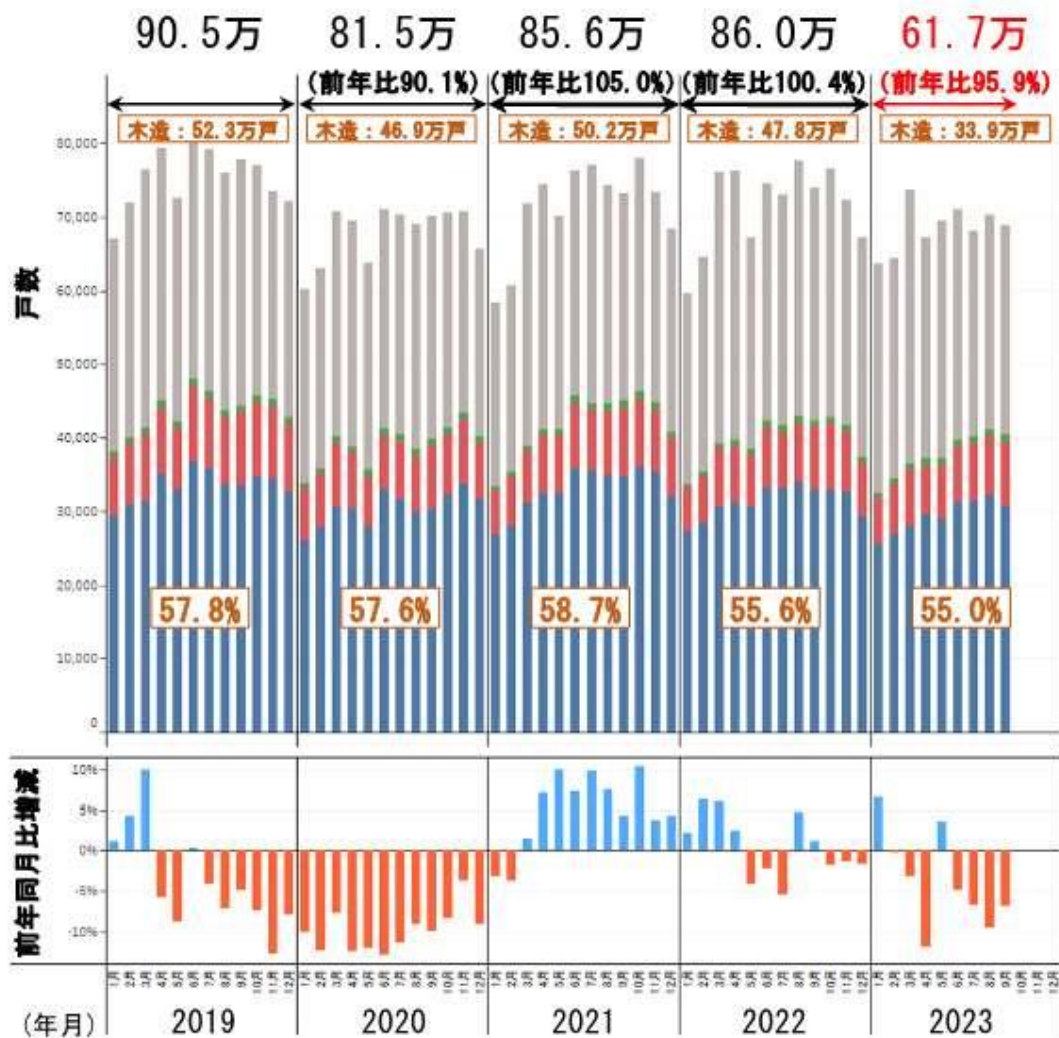
- 四国における2022年の木造住宅着工戸数は 13,213戸（前年比93.1%）、2020年を更に下回り過去10年間で最も低い水準となった。
- 2023年10月末の木造住宅着工戸数は10,821戸（前年同期比97.2%）、県別では、徳島県 1,984戸（同106.1%）、香川県 3,317戸（同103.4%）、愛媛県 3,922戸（同93.1%）、高知県 1,598戸（同86.6%）となり、愛媛県と高知県は前年同期を下回った。



## 2 全国の住宅着工戸数の推移（2019年1月～2023年9月）

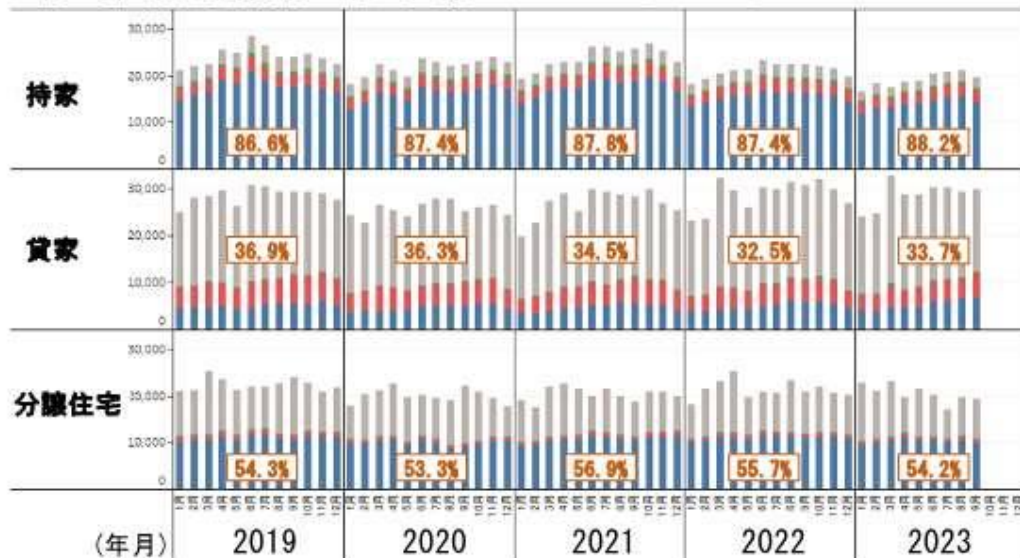
- 2022年の新設住宅着工戸数は、86.0万戸（前年比100.4%）、このうち木造住宅は47.8万戸（同95.1%）となり、2021年の水準を下回った。
- 2023年1～9月の新設住宅着工戸数は、61.7万戸（前年同期比95.9%）、このうち木造住宅は33.9万戸（同95.4%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2023年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	617,030	643,318	95.9%	636,673	96.9%
■非木造	277,638	287,413	96.6%	266,483	104.2%
木造	339,392	355,905	95.4%	370,190	91.7%
■木造プレハブ	7,869	7,336	107.3%	7,641	103.0%
■2×4	66,630	67,004	99.4%	70,312	94.8%
■在来軸組	264,893	281,565	94.1%	292,237	90.6%
□木造率	55.0%	55.3%		58.1%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



# 「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

## 分析結果

### (ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

(調査月 令和5年7月～令和5年10月)

【スギ中丸太】 ・ 8月のみ下限値を逸脱したが、以後は定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

(調査月 令和5年7月～令和5年10月)

【スギ中丸太】 ・ 5ヶ月以上連続した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 5ヶ月以上連続した動きはなし。

### (ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

(調査月 令和5年7月～令和5年10月)

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

(調査月 令和5年7月～令和5年10月)

【スギ中丸太】 ・ 8月以降、下限値を逸脱。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

(調査月 令和5年7月～令和5年10月)

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

#### 〔判断基準・指標〕

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用



## ○ 丸太価格、在庫率の変動

### 1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 5.86%				逸脱下限値 -5.97%				逸脱上限値 21.96%				逸脱下限値 -21.92%				逸脱上限値 17.62%				逸脱下限値 -17.98%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月								
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	0.14%	-7.29%	-0.87%	-4.88%	2	-1	-2	-3	-16.51%	-21.65%	-20.77%	-19.91%	-14.71%	-19.60%	-18.49%	-19.83%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.07%				逸脱下限値 -9.32%				逸脱上限値 39.74%				逸脱下限値 -41.79%				逸脱上限値 29.80%				逸脱下限値 -33.85%			
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)											
	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月	7月	8月	9月	10月								
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	2.24%	-0.48%	-0.39%	-1.57%	8	-1	-2	-3	-22.74%	-15.87%	-1.30%	6.95%	-23.65%	-20.14%	-16.87%	-12.29%								

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	7月	8月	9月	10月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.28	1.13	1.06	0.97
製材用素材(愛媛・高知)	1.24	1.16	1.12	1.03

逸脱上限値	逸脱下限値
1.88	0.81
1.58	0.89

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。